

「吉里吉里人」の舞台 井上ひさし



ほうらいじま
蓬莱島 **アクセス** 大槌駅より車で8分
所在地 大槌町赤浜

ご存じ、井上ひさし氏の「ひょっこりひょうたん島」のモデルの一つと言われる、大槌湾にぽっかり浮かぶ蓬莱島。山々の緑が濃くなるにつれ、蓬莱島はますます劇中の「ひょうたん島」をほうふつとさせます。

井上氏が小説のタイトルに大槌の地名を用いた「吉里吉里人」。お隣の釜石に住んでいた当時の井上氏は、仕事で大槌をたびたび訪れていたと言われ、どこか大槌の風土には、作家の創造をかき立てる浪漫が潜んでいるのかもしれないね。



教育とサーモン養殖、ジビエのまち「おおつち」

・人口 10,537人(2024.8.31)



ぼくも
待ってるよ!!



大槌の教育のあゆみ



校舎建設
統廃合

小中一貫
(0歳から
18歳まで)

教育課程
特例校～H30
ふるさと
科

コミュニ
ティ
スクール

放課後
学びの場

2011 (H23) 2012 (H24) 2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29) 2018 (H30) 2019 (H31-R1) 2020 (R2) 2021 (R3) 2022 (R4) 2023 (R5)

●3月 東日本
大震災津波

(町内児童生徒) 仮設入居率
39.5% 34.9% 33.0% 23.9% 19.4% 12.2% 0%

●9月 大槌小・大槌北小・安渡小・赤浜小
大槌中 合同仮設校舎で授業開始

●9月 大槌学園
本設新校舎で授業開始

●4月 4校を1校に
新大槌小学校として開校

●4月 大槌高校魅力化事業開始

●11月 小中一貫全国サミットinおおつち開催

●4月 小中一貫教育開始
大槌学園・吉里吉里学園開校

●小中一貫教育連絡
協議会開催

●4月 大槌学園
義務教育学校に移行(全国
22校⇒R5 207校)

●4月
「やき
共育
開始

●4月「ふるさと科」試行
●「ふるさと科」推進会議

●6月 大槌町子供の学び基本条例制定

●3月 大槌町教育大綱公示 ●4月 1人1台端末整備

●4月「ふるさと科」開始

●7月「目指す子ども像」協議

●7月「目指す子ども像2020」協議

●学校支援コーディネーター配置

●CSコーディネーター配置

●学校支援地域協議会開催

●7月 学校運営協議会設置

●4月 コミュニティ
スクール委員会設置

●4月 両学園を
コミュニティスクールに指定

●9月 子どもセンター開始

●4月 放課後子供教室開始
大槌町こども教育センター
「OLA I」開所

●12月 コラボ・スクール大槌臨学舎開始

●4月 きりっこスクール開始

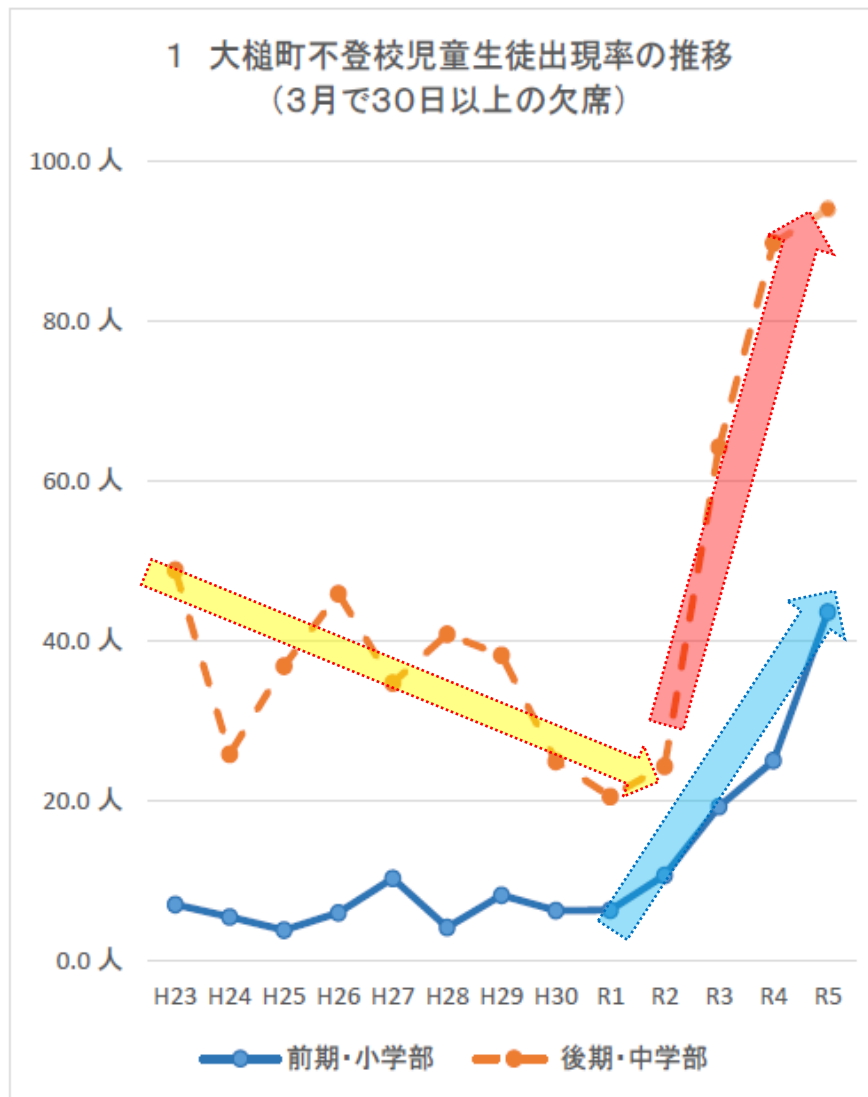


不登校（傾向）児童生徒の急激な増加



1 大槌町不登校児童生徒出現率の推移（3月で30日以上欠席）

	前期・小学部			後期・中学部		
	不登校児童生徒数	児童数 * 3月時点	出現率 ※1000人あたり	不登校児童生徒数	生徒数 * 3月時点	出現率 ※1000人あたり
H23	4	576	6.9 人	19	389	48.8 人
H24	3	556	5.4 人	9	349	25.8 人
H25	2	533	3.8 人	13	353	36.8 人
H26	3	507	5.9 人	15	327	45.9 人
H27	5	488	10.2 人	11	317	34.7 人
H28	2	487	4.1 人	12	294	40.8 人
H29	4	491	8.1 人	10	262	38.2 人
H30	3	484	6.2 人	6	241	24.9 人
R1	3	481	6.2 人	5	244	20.5 人
R2	5	470	10.6 人	6	247	24.3 人
R3	9	468	19.2 人	16	249	64.3 人
R4	12	481	24.9 人	21	234	89.7 人
R5	20	459	43.6 人	22	234	94.0 人
	全国(R4)		17.0 人	全国(R4)		60.0 人



「けやき共育」(大槌型特別ニーズ教育)の体制



大槌町の0歳から18歳までの全ての子どもたちを対象に、特別ニーズ教育の視点で支援することで「目指す子どもの姿(自立・協働・創造)」「誰一人取り残さない学びの保障」の実現を目指す

学 校

- ・日常的な支援・指導
- ・ケース会議の開催
- ・研修による教員及び支援員の資質向上

保護者

- ・教育相談の利用
- ・ペアトレ等研修会への参加
- ・保護者サロンの利用

児童・生徒



誰一人取り残さない
学びの保障

- ・学校サポーター

地 域

- ・SC、SSWの派遣
- ・各学園・園への専門チーム派遣
- ・町教育支援委員会の開催
- ・各研修会の企画・実施(教員支援員・保護者対象)

町役場

- ・教育相談の実施
- ・「多様な学びの場」の整備
- ・関係機関との連携強化

教育委員会

町専門チーム

- ・指導主事・精神科医
- ・指導員・各事業所
- ・釜石祥雲支援学校
- ・健康福祉課 他
- ・宮古児童相談所
- ・沿岸発達支援センター
- ・こどもケアセンター 他

特別支援教育
エリアコーディネーター

関係機関

- ・日常的な支援
- ・就学時の確実な引き継ぎ(はまっとの活用)
- ・専門チームとの情報共有
- ・町の教育相談、随時相談の活用
- ・研修による保育教諭等の資質向上

幼稚・保育・こども園

「けやき共育」の最上位目標と達成のための手立て



○ 「けやき共育」の達成すべき**最上位目標**

すべての子供達に、特別ニーズ教育の視点で支援を行うことで

1 すべての子供達が、安心・安全に生活・学習ができる

※すべての子供達のウェルビーイングの実現

2 すべての子供達が、適切に支援を受けることができる

「おおつち」を訪れるだけで何かを感じていただけるはず、関係者や地域の方の声を聞くことでなんらかの学びが生まれるはず、そして、何より「おおつち」が好きになってくれるはず

この最上位目標を達成するために手立て

1 新規の不登校児童生徒を未然に防ぐ取組

- 未就学児童や就学後の早い段階での相談・支援体制の充実
- 子供が主語の安心・安全な学園・高校づくり

2 不登校児童生徒への支援

- 児童生徒に自宅以外の学びの場の設定
- 家族以外の大人からの支援の充実
- 保護者の相談や関わりの場の機会確保

3 上記の1, 2の両方にかかわって

- 0歳から18歳までの主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- 特別ニーズ教育の視点での子供の支援
- 首長部局、教育関係団体との連携・協働
- 地域住民の理解と支援
- 充実した研修体制

大槌町は皆さんの研究を全力でサポートします



大槌町は、チームで課題を解決する町です

就学前、小中高が一体となって、子供達を育てる仕組みができています

教育委員会、町長部局、各園、各学園(小中学校)、大槌高校、
大槌高校魅力化推進員(NPOカタリバ)、教育関係団体が連携・協働しています

サポーター、左から南SSW、佐藤主任社会福祉士、佐藤医師(東京大学病院こころの発達診療部)

大森教育相談員、照井指導主事、東ことば指導員、金子指導主事

